

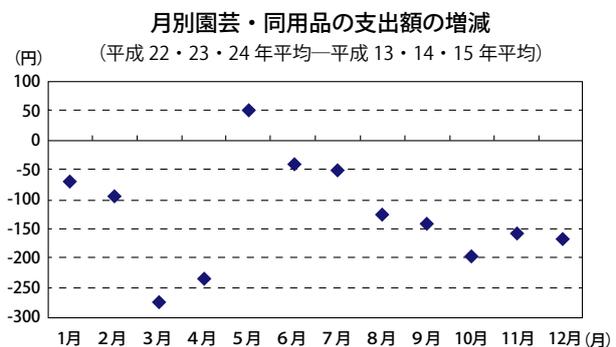
今月のコラム

園芸統計で考えたこと



(株)ハイポネックス ジャパン 桑田博史

ゴールデンウィークが終わったばかりで、今春の園芸シーズンを総括するにはまだ少し早いようです。昨年の5月の総務省の家計調査報告「園芸品・同用品」による支出額は1864円であり、前年比118%と好調で過去10年間の最高金額でした。今年の5月の支出額が気になりますが、もうしばらく待たなければなりません。掲載しているグラフは、同統計の平成13年からの3年間と平成22年からの3年間の、月別の支出額の増減をプロットしたグラフです。5月の支出額は昨年が好調であり、どうにか10年前の水準を維持



していますが、他の月は軒並みダウンしていて、3月4月10月の園芸シーズンの落ち込みが大きいことが解ります。

この原因の一つは、季節感が薄らいできていることが挙げられるのではないのでしょうか。のどかな春・すがすがしい秋を感じて、ガーデニングを楽しむ期間は、足早に駆け抜けて年々短くなっているように思います。GWが終わっても園芸前線が長く留まり、梅雨前線を押し退けて欲しいと願っています。

もう一つは大都市中心に進んでいる高層マンションの建設の影響ではないでしょうか。この建設ブームは今後も続くでしょう。高層マンションへの移住者の多くは、郊外の戸建てで園芸を楽しみながら子育てを終えた団塊の世代で、便利な生活を求めて都心にUターンしているのです。このUターンは園芸休眠世代を増やしているかもしれません。



天候だけは意のままになりませんが、それ以外の対策は不可能ではありません。四季感が薄らいだならば、四季が実感できる園芸売り場を演出することが大事です。2月末にアメリカのオハイオ州を訪問しましたが、ガーデンセンター/ホームセンター/スーパーマーケットの植物売り場に植物は一切ありませんでした(写真)。各店舗は3月後半になれば季節到来とばかりに一斉に花苗の販売をスタートさせるのでしょうか。待ちに待ったお客様は我先にと花苗売り場を目指します。このようなメリハリある売り場づくりは園芸マーケットを活性化させると思います。

次に園芸売り場の空白地帯の解消です。都心のマンションの近くに、ホームセンターがなく園芸店を探してもなかなか見つからない。マンション族は好むと好まざるに拘らず、園芸から離れざるを得ない状況におかれているかもしれません。手軽に、室内栽培に適したカラフルな草花・観葉植物を手に入れられれば、生活に潤いを求めて園芸に復帰するでしょう。

一朝一夕にはできませんが、時代の変化を敏感に感じつつ、軽いフットワークで連携することが、園芸業界に求められているように思います。

新規ご入会申込み (株)ナカヤマ様、八大(株)様



カエデ
kaede

ガーデンを考える会 総会記念セミナー

6月11日、野村勘治氏と小薇氏

NPO 法人ガーデンを考える会総会が6月11日午後、東京南青山のユニマツト青山ビルにおいて開催されるが、総会後の記念セミナーが野村勘治氏と小薇氏より行われることになり、セミナーとその後の懇親会の参加者を募集している。参加費はセミナー2,000円、懇親会は3,000円。会員は1社につき1名無料。

申込みはホームページ <http://www.npogarden.com/houkoku.htm#soukai2013>

もしくは事務局へ TEL:052-571-7911 FAX:052-571-2208 e-mail:npogarden@green-joho.jp

講演内容 ■食とガーデン活性化 講師:クッキングサロン「幸せ中国家庭料理」代表 小薇先生
■ヨーロッパでの庭造り～枯山水庭園は語る。 講師:(有)野村庭園研究所取締役 野村勘治先生

講師紹介

14:10
～
15:30

食とガーデン活性化

しゃう うえい
小 薇先生

人気中国料理家 世界家庭料理研究家
クッキングサロン「幸せ中国家庭料理」代表



小薇(シャウウェイ)本名は蔡 薇(サイ・ウェイ)。中国上海市調理協会法人会員。

人気中国料理家。世界家庭料理研究家。クッキングサロン「幸せ中国家庭料理」代表

果物と音楽の郷と呼ばれる中国・新疆ウイグル自治区出身。料理好きな植物学者の父親とオペラ歌手の母親の間に生まれ、幼い頃から料理に関心が高く、鋭敏な味覚を養う。

中国各地の家庭料理をはじめ、中央アジアなどシルクロード料理に通じる。

大学卒業後、上海の人気アナウンサーとして活躍し、1994年来日。朝日カルチャーセンターで中国家庭料理を教え、人気を博す。その多彩な料理のセンスは、料理雑誌『エル・ア・テーブル』で評価され、第三回若手料理業界人フードバトルのグランドチャンピオンに輝く。

「はなまるマーケット」、「ヒルナンデス!」、BS「ほっと@アジア」などのテレビ番組に登場し、『エル・ア・テーブル』や「Dancyu」などの料理雑誌でのレシピも好評である。

現在東京中野区でクッキングサロンを主宰する。シャウ・ウェイの料理の持ち味は、食材の風味や自然の味を生かしつつ、中国の伝統の味を守りながら和や洋の要素を取り入れて、モダンで斬新なスタイリングを生み出す点にある。

まるでダンサーのようにリズムカルな手さばきは、エネルギー感で魅惑的な存在感を感じさせる。

美容と健康に気を使いながら、心身に満たされる幸福な味を追求していくシャウ・ウェイの料理は、今後ますます注目されるに違いない。

著書:「小薇流ひと手間で本格中華おかず」「愛しい上海料理」朝日新聞出版社より

講演概要

食食同源の中国家庭料理から考える家庭ガーデン(家庭菜園)の重要性と活用。現代の人々がもっと元気の出る暮らしはつまり食にあり、元気の出る食事を摂りながら、暮らしをもっと豊かにするスローフードの素晴らしさを再認識。

スパイスの話、薬膳料理の話、長寿、養生法についても幅広くお話ししたいと思います。

15:40
～
17:00

ヨーロッパでの庭造り ～枯山水庭園は語る。

のむら かんじ
野村勘治先生

(有)野村庭園研究所取締役/三重大学非常勤講師
日本庭園学会理事 京都林泉協会副会長



1950年愛知県生まれ、東京農業大学短期大学卒業。庭園研究家 重森三玲に師事。

住宅から商業及び公共・和から洋・多様な外空間の設計及び施工、100以上の古庭園の実測調査、著述・講演等で日本庭園の魅力を紹介。

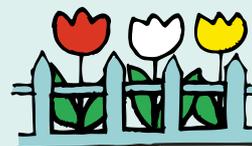
講演概要

今から10数年ほど前から度々ヨーロッパに渡り、5つの日本庭園を造った。全て枯山水庭園である。発案及びこれを推進したのはドイツ・ミュンヘン在住のノンフィクション作家・村木眞寿美さんである。

大小5つの庭は、チェコ・ドイツ・スイス・オーストリア・ハンガリーの5ヶ国に造られた。庭は日本と彼の地の友好を記念する為のものだが、単にそれだけではなく、禅院の枯山水庭園が本来有していたメッセージを伝えるものとして造形された。ある意味で禅宗庭園はテーマを空間及び個々の石に重ねる事によって表現する造形であり、無とか侘とか曖昧な表現で語る造形ではない。現在では忘れられがちなメッセージと表裏一体となった5つの庭園、共通項は友愛・鎮魂を願う陰陽和合の丸い枯山水である。古典的でモダン、和風でグローバルな庭と自負している。

ちなみに数年ぶりに今年4月に6つ目の庭をドイツで造ることになった。完成ホヤホヤの庭を含め、6つの庭のテーマと作庭談。

登場人物は日本にドイツ医学を伝えたベルツ博士、クーデンホーフ光子とEUの父と呼ばれているリヒャルト・クーデンホーフ=カレルギー。





Living with Orchidsをデザインする

APOC11で室内植物を提案

第11回アジア太平洋蘭会議・蘭展—沖縄大会が2月2日～11日、沖縄の海洋博公園で開催されたが、主催者展示ブースにおいて(株)ウイン代表稲田純一氏が、新しいデザインによる新しい室内植物のあり方を提案した。



TAKAMATSUスクール2013

ジョイフル本田で、ジョン・スタンレー氏によるワークショップ

今、生産者および小売店に最も注目されているセミナー「第6回 TAKAMATSU スクール 2013」が2月21～22日の2日間、茨城県と千葉県柏市で開催された。主催は高松商事(株)。

21日のジョイフル本田荒川沖店会場では、世界各国のガーデンセンターで園芸コンサルタントとして成功を収めているジョン・スタンレー氏が特別講師として「欧米の園芸最新マーケティング情報を学ぶ」と題し、午前中にセミナー、午後は売り場づくりのワークショップを行った。参加したのは全国の小売店オーナー・店長、生産者各15名ずつで、いずれも若い人達であった。



店頭での飾り方のポイントを説明するスタンレー氏(左より3人目)

「父の日」に観葉植物を贈るポスター制作

花市場を通して小売店に配布

NPO 観葉植物開発普及協会は、観葉植物のさらなる普及のために、6月中旬の日曜日「父の日」(今年は6月16日)に観葉植物を贈るキャンペーンを行うことになり、日本花普及センター、日本花き卸売市場協会、日本花き生産協会と一緒にポスターを製作した。

今回のポスターは、裏表両面印刷で、表面は「父の日に観葉植物を贈ろう」と大きく打ち出したデザイン。裏面では空気浄化、自然の加湿器、ストレスの緩和・癒し効果、視覚疲労の回復など観葉植物の効用が科学的に証明されていることをうたっており、1年中貼っておくことができるデザインとなっている。



キャンペーンポスター表面▶



カエデ
kaede



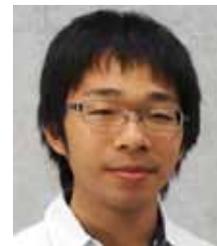
特殊緑化のトラブルを考える

有限会社緑花技研は、特殊緑化技術全般の専門のコンサルタントを行なう会社です。今まで培ってきた様々なノウハウを見込まれ、緑化トラブルの事例にアドバイスを求められることがあります。その中で、人的要因によって引き起こされたトラブル事例も少なくありません。

壁面緑化において人的要因のトラブルが起こりやすいのは灌水です。トラブルの例を挙げると、自動灌水タイマーの設定が週に一回(冬季の灌水)のまま夏季も運用していたため、植物が枯れてしまったという事例があります。自動灌水タイマーをきちんと設定していたとしても、他の業者が他の作業をする際に灌水の元栓を閉めたまま作業を終えてしまい、枯れてしまった事例も多くあります。こういったトラブルは植物が枯れてしまってから発覚する場合はほとんどです。未然に防ぐためには、管理者への周知徹底はもちろん、決められた時間に灌水が行なわれなければすぐに知らせるといったシステムを検討し、植物が枯れる前に対処を行なえる体制を整えることが重要です。

屋上緑化では、排水に関するトラブルが多く起こっています。国土交通省の屋上のビオトープ池の事例では、オーバーフロー用の排水管出口が土留めの内側で止まっていたため水がせき止められ、池上部から水が溢れ出すトラブルが発生しました。他にも、土留めの排水孔を内側から不織布で覆ったために、目詰まりして植栽部がプール状になるなどの事例もありました。未然に防ぐためには、設計者がその意図を明確にすることが大切です。現場監督が設計者の意図を汲み取れずにトラブルが起きることがあります。排水孔の重要性を知らない依頼主が、大きな穴が開いているのはみっともないからやめろと言ってきた場合に、現場監督が設計者の意図を汲み取れずにトラブルになる可能性があります。

これらの情報を発信して、緑に携わる全ての人が知識、情報を共有して人的要因によるトラブルを少しでも減らしていけたらと考えています。



(有)緑花技研
藤田昌志



夏季にほとんど灌水されず枯れた植物



土留めの内側で排水管が止まっている

会員紹介

(株)東海化成

1968年の創業より、私ども株式会社東海化成は、プラスチックの育苗容器であるポリポットを作り続けて参りました。弊社が創業より業界の中で先がけて力を入れてきたのが、全国に独自の販売網を持つこと。おかげさまで現在、ご愛顧いただいているお客様は、種苗会社様、資材会社様、苗メーカー様、ホームセンター様など約600社。そして、お客様の様々なご要望にお応えしながら商品開発をすすめ、取り扱わせていただいている商品は、ポリポットを中心にトレー類その他関連資材合わせて、約2000種類に及んでいます。

少子高齢化により日本の市場が縮小し将来が非常に不透明な中、東海化成は皆様の声を大切にした商品開発をすすめ、皆様とともに市場創造に努める所存です。



住所：岐阜県美濃市曾代66
TEL：0575-33-4112 FAX：0575-35-1998
HP：http://www.tokai-kasei.co.jp/